

広報 
No.694
令和3年



いいたて

12
2021



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

www.vill.iitate.fukushima.jp

今月の話題
vol.20

MOMOTARO in English! 英語劇で桃太郎!

MOMOTARO (3・4年生)
流暢な英会話で昔話「桃太郎」を演じました。鬼と対戦するシーンでは見事な殺陣(たて)も披露し会場をわかせました。



現代風狂言「柿山伏」(5・6年生)



現代風狂言「柿山伏」(5・6年生)



開会宣言



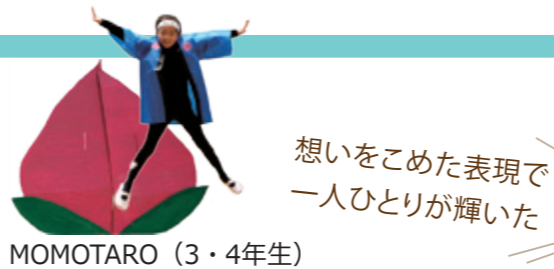
がくしゅうのやいば(1・2年生)



がくしゅうのやいば(1・2年生)



いいたて元気太鼓



MOMOTARO (3・4年生)

想いをこめた表現で
一人ひとりが輝いた

10月30日、『いいたて希望の里学園』で、いいたてつ子発表会『赤蜻祭(せきしようさい)』が開催されました。
テーマは「可能性、無限大」。実行委員長の高橋正人さん(9年生)が「新型コロナの影響で活動が制限される中だからこそ、可能性が無限大であること」を表現しよう」と開会を宣言。山田徹校長があいさつし「全教職員が一人ひとりのよさを大切にかかげえの存在として

見守っている。『自分のよさ』を発揮する姿を見てください」と発表会に込めた想いを伝えました。
伝統を新たな形で継承する前期課程の「いいたて元気太鼓」、後期課程が受け継ぐ「小宮の田植踊り」、そして一人ひとりが輝いた学年の発表、場内を圧倒した特設部のステージなど、どこを取っても素晴らしい発表会となりました。

「いいたて学」の発表についてはP4からの特集で紹介します

小宮の田植踊り

全校合唱

児童生徒が体育館いっぱいに歌声を響かせました。この「故郷」4番の歌詞は平成28年度に飯館中学校の生徒が作家・伊武トーマさんと共に創作したものです。

胸に生きる 思い出
いつも村を 思わん
までの心 めぐりて
わたしたちの ふるさと

とことんチャレンジ! 『赤蜻祭』

せきしようさい

いいたてつ子発表会『赤蜻祭』「可能性」を謳う感動のステージ

目次 CONTENTS

- 2 今月の話題「赤蜻祭」
- 4 特集1「いいたて学」
- 10 特集2「ふくしま駅伝」
- 12 農政topics「あぶくまもち」ほか
- 14 飯館百景「錦秋の点描」
- 16 学びの広場「こども園・学園だより」
- 18 ほけんとふくし「むし歯0の子表彰式」ほか
- 20 いいたて便り
- 22 話題のパレット
- 23 はなれていても/ふれ愛館だより
- 24 おしらせのページ
- 25 入札結果
- 26 いいたてDIARY/までの食卓
- 27 ふるさと資源/ひとのうごき
- 28 ほっとNEWS/飯館言葉の達人



今月の表紙

11月21日に開催された『ふくしま駅伝』。飯館村チームの力走は大きな感動を呼びました。表紙は快走した16区・アンカーの細杉睦輝選手。上の写真は20回連続出場、10区・主将の大内龍太郎選手。一人ひとりがチームの信頼に応え、懸命な走りです。16区間をつなぎました。P10の記事もご覧ください。

いいたて学

人から人へ伝わる学び



学校田の稲刈り（令和3年）

今年度も佐藤博さん（二枚橋・須萱）の水田の一部を学校田としてお借りして、前期課程の児童が田植えや稲刈りを体験しました。11月4日には、佐藤さんや作業をお手伝いいただいたボランティアの皆さんを学校に迎えて感謝を伝え、収穫した新米の給食を皆で味わいました。



飯樋町の田植え踊り（平成25年）

避難中の飯館中学校で生まれた「ふるさと学習」。その一環で「飯樋町の田植え踊り」の継承が始まりました。保存会の方々の協力の下、中学生がさまざまな機会に踊りを披露しました。写真は福島市飯野町の古民家で記録映像を撮影した際の1枚です。

令和2年に開校した村立の義務教育学校「いいたて希望の里学園」。豊かな教育環境と、少人数教育の強みを生かして、子ども達の可能性を最大限に引き出しながら、心の教育にも力を入れています。

義務教育期間の9年間をかけて、飯館村ならではの小中一貫教育を行う同校に、「いいたて学」という教科があることをご存知でしょうか。

「いいたて学」は、地域に根ざした実践的な活動を通して、いいたてに学び、情操や自立心を育み、生きる力を養う教科。1年生から9年生までが、「いいたて学」の学びを体系的に進めながら、それぞれ発想力豊かな活動を行っています。

子ども達の学びが新たなページを開いていく「いいたて学」の魅力を、「いいたて学」が生まれたルーツと合わせてお伝えします。

『赤蜻祭』の舞台から 生徒が見つめた『いいたて学』

10月30日に『いいたて希望の里学園』で行われたいいたてつ子発表会『赤蜻祭』。7・8・9年生が『いいたて学』の学びについて、発表を行いました。7年生は飯館村の「過去」を、8年生は「現在」を、9年生は「未来」をテーマに、自ら設定した研究課題で学びを深めていました。

「受け取る側から、つなぐ側へ。私達自身が教わり

体験する飯館村の人々の思いを、自分の言葉で語り継ぐ」「そこに存在する思いや願いを受け止め、何をすべきか考えていきたい」。7年生の言葉は真つ直ぐに心に響くものでした。

8年生は、取材した村民を紹介する「いいたて名人図鑑」を制作。寸劇で取材時のやりとりを演じ、人との関わりから得た学びを伝えました。

9年生は、「いいたて未来地図2030」と題して、「プレイスポット」「カフェ」「特産品」の3つについて具体的な提案を行いました。よりよい未来のために、村にある資源や魅力を生かす。発想の素晴らしさに加えて、イメージを伝える模型やメニューのレシピなども提示して、実現性を印象づけるプレゼンテーションを行いました。



7年生



8年生



9年生



小宮の田植え踊り

「いいたて学」のルーツは震災直後の飯館中学校にありました

大震災の発災からひと月が経過した平成23年4月、飯館中学校は、川俣高校の一角を借りて学校を再開しました。4つの教室に6学級。特別教室もなくトイレは仮設という不自由な環境。放射線対策のために夏でも長袖、窓を締め切った授業で、屋外での活動も行えませんでした。

同年8月に着任した遠藤哲校長（現教育長）は、約7割の生徒が間借りの窮屈な校舎に残り、けなげに学校生活を送っているのを見て、新しい取り組みを進めようと決意します。「厳しい学習環境が我慢する心を育て、多くのご支援が感謝の気持ちを育てる」と状況を捉え直し、「今だから、飯館中学校だからできること」「感謝の気持ちを変えて」をスローガンに。支援に感謝するばかりではなく、中学生の活力を積極的に発信し、被災された方々に元氣と勇氣を届けようと、平成24年7月には「仮設住宅訪問」を開始しました。

同8月には、福島市飯野町に、空き工場を改修した仮設校舎が完成。念願の特別教室、運動場、体育館、テニスコートも順次整備され、学校生活は徐々に落ち着きを取り戻していきました。仮設訪問をきっかけに始まった活動は、翌25年度から、総合的な学習の時間に「ふるさと学習」として位置づけられました。

これが「いいたて学」のルーツとなっています。



仮設住宅で行っていた奉仕活動や交流活動、田植え踊りの披露などが「ふるさと学習」に引き継がれていきました。
※写真は平成26年度

避難の中で飯館を学んだ「ふるさと学習」

仮設住宅で行った清掃や炊き出しなどの奉仕活動を基に、避難の中で「ふるさとを学ぶ」「ふるさと学習」が始まりました。伝統文化の継承として、田植え踊り、民話紙芝居、郷土料理などへの取り組みが本格化。村民を講師に迎えて「飯館町の田植

え踊り」「小宮の田植え踊り」「はなづか太鼓」などを習い、披露もできるようにになりました。また、避難先でも前を向く村民を取材し、さらには震災前の村についても調べ、全村避難中の飯館村の魅力あるふるさととして発信。「継承から創造へ」と掲げた

平成28年度には、当事者として「復興」を考えようという活動も展開しました（左の写真）。これら5年間にわたる活動が評価され、飯館中学校の「ふるさと学習」は、平成28年11月に、「博報賞」教育活性化部門・文部科学大臣賞を受賞しました。



文化に触れ人と関わり ふるさとのよさを感じていました



佐藤 柁哉 さん
飯館中学校・平成28年度の卒業生。中学時代は3年間仮設校舎で学びました。現在は茨城県で大学生を送っています。

「ふるさと学習」の活動では、赤蜻祭での田植え踊りや、民話紙芝居のレコーディングなどが特に印象に残っています。避難の中で、出身の村の文化を知ることが、大きなテーマとしてありました。仮設訪問などで村の方と交流したり、田植え踊りを通して先輩とつながりが持てたり、いろいろな人と関わることができたのも大きな経験でした。

学びを通して、飯館村には、無理に周りに合わせることはせずに、もともと持っているものや得意なものを大事に生かして頑張ろうという「よさ」がある——と感じていました。大学で都市計画について学んでいるのですが、地方再生というカテゴリーで、自治体の取り組みや被災地の再生について学ぶ時、飯館村のことを思い出します。仮設訪問などを通して、その実情を知っていることも、被災地出身の自分の経験として大きいものと思っています。現在の学校で「いいたて学」を学ぶ皆さんにも、村でしかできないことをたくさん経験してほしいですね。

仮設住宅での活動が原点に

「離れていてもふるさととはふるさと」「子や孫に会えなくなっているおじいさん、おばあさんを喜ばせたい」…そんなシンプルな発想から始まった仮設住宅訪問。支援に感謝するばかりで、一杯の学校生活でしたから、村民に喜んでもらえる活動ができたことは、大きな経験でした。

仮設の自室から出てこなかったお年寄りが田植え踊りを見るために車椅子で出てきてくれたこともありました。子ども達は、活動の意義を自覚していくと同時に、気持ちも穏やかになっていました。自分も村の人も元気になるために始まった原点が生かされ、地に足のついたよい活動が展開されています。「いいたて学」としての発展は、その後の生徒や先生方の努力の賜物です。ふるさとを知ることとは大切なこと。村の教育の特色にもなっていると考えています。



飯館村教育委員会 遠藤 哲 教育長
元飯館中学校長。（平成23年8月から同25年度）
令和元年度から飯館村教育委員会教育長。

好きです!



9年生の杉岡佳朋さん(左)と9年担任の穴戸愛美先生に聞きました。

小さい頃のことはあまり覚えていないけれど私の「ふるさと」は飯舘村だと思っています

義務教育学校となった令和2年度から「いいたて学」で学びや活動を進めている児童生徒の皆さんに聞きました。

「いいたて学」は好きですか?

「いいたて学」は「飯舘村のために何かができる」ところがとて面白いと思います。村をよりよくするためのアイデアを皆で出し合い形にしていくのが楽しいです。私は人を呼べる施設としてプレイスポット「うっず・あどべんちゃ〜」をつくりたいと考えました。いつか実現できたらいいなと思います。「いいたて学」で調べてみると、これを生かしたらよりよい村になると思えるところがたくさんありました。将来やりたいことはまだ決まっていますが、選択肢があるならできれば村のどこかで働きたいと思っています。

今年赴任したばかりの私は初めて「いいたて学」に取り組んでいます。村の外に住んで通っている生徒も、こうして将来も村に関わりたいと考えることができる一ふるさとについて知り考えることはすごく大事なことのだと改めて感じます。



9年生

「飯舘村の未来」をテーマに

「カフェ」を考えたグループは花をモチーフにしたフルーツサンドなどを考案。「特産品」のグループは試作した「いいたて 風キムチ(飯)」に「あなたのキムチ わたしの気持ち」というユニークなキャッチフレーズ。

後期課程



いいたて希望の里学園 山田 徹 校長

人々との触れ合いが「いいたて学」をつくる

自分のふるさとがどんなに素晴らしい所か、住んでいる人と実際に触れ合っただけで学ぶことができない。それが「いいたて学」のよさだと思っています。村の外から通っている子ども達も、村の人と触れ合い、その想いや願いを知ること、勇気づけられていると思えます。また、村の文化、歴史、伝統は、次の世代が引き継いでいかなければ、いずれ断ち切れてしまいます。「いいたて学」の学びを通して、学園が文化継

承のお手伝いもできればと思いますし、将来の村を支える人材を育てていきたいと考えています。また、凧づくりや団子さし、凍み餅づくりを教わったり、発表会に向けてのインタビューに協力をいただいたり、「いいたて学」に限らずいろいろな場面で、多くの村民の皆さんに関わっていただき本当にありがとうございます。人々との触れ合いを大切にしていきたいので、これからもよろしくお願ひします。

好きです!



11月25日、村の農家の皆さん取材して戻ってきたばかりの5年生に聞きました。

前期課程

飯舘村のよさは、書ききれないほどあると思います。一番はあたたかい心を持っている人がいることです。若い人がもっと農業を担ってほしいということを知って、その一歩に僕達ができるにはどうすればよいかを考えています。

「いいたて学」が好きです。なぜかは「いいたて学」を勉強することで、飯舘村の魅力や楽しさが分かり、もっと好きになることができるからです。

私が思う飯舘村のよさは、人のつながり、関わり合いがあたたかく楽しいところだと思います。震災後もみんなで助け合い、励まし合っていたことも、すごいと思います。

自然がたくさんあって、とっても居心地がいい村だと思います。村の人は本当に飯舘村が好きなんだと感じます。「いいたて学」は村のいろいろなことが分かりとても楽しいです。



5年生

花、蕎麦、エゴマ…村で特色のある農作物を生産している皆さんを訪ねてその思いも聞き取りました。



毎年学校田でお世話になっている佐藤博さん(二枚橋・須萱)から稲作についてたくさん教えていただきました。

「いいたて学」は多くの村民ボランティアに支えられています

学校と村民のつなぎ役



地域コーディネーター 西尾ツネさん(二枚橋・須萱)

震災直後、川俣町の学校の一部を間借りして学校が再開した頃、子ども親も先生もがっかりして下を向いていることにふと気がつきました。「何かこの子達のためにできることはないか」。そんな思いで「地域コーディネーター」の資格を取得。機を同じくしてスタートした「コミュニティスクール」の取り組みに協力する形で、村民ボランティアと学校のつなぎ役をするようになりました。福島市荒井の水田で子ども達と田植えが

きた時、大きな声を出して喜んでる様子にすごく感激しました。その秋には稲刈りをして、翌年には餅つきをして、いろいろな方に声をかけて活動が続きました。お年寄りに頼もじりの先生になつてもらったこともあり。参加した方々にも「孫が来ない学校だけども来てくれてよかった」と喜んでいただいで、そんな時はつなぎ役ができてよかったと感じました。「いいたて学」を通して、まじな暮らしの精神を引き継いでいけたらありがたいし、子どもに限らず大人にも、飯舘にはよいところがたくさんあると伝えたい。さまざまな経験が、未来に進む力も育んでいくと思っています。



1区 菅野裕日子選手



2区 三浦有矢選手



3区 菅野茂則選手



4区 佐藤彰洋選手



5区 飯畑友貴選手



6区 大内匡泰選手



7区 杉岡響選手



8区 菅野拓真選手



9区 齋藤あおい選手



10区 大内龍太郎選手



11区 赤石澤歩美選手



12区 高橋大和選手



13区 高橋隆聖選手



14区 菅野翔選手



15区 佐藤万姫選手



16区 細杉睦輝選手

思いをつないだ16区間の力走

「福島市に住んでいるけど毎年ここで応援しているの。村のタスキをつないでくれてありがとうって涙が出る」。県庁近くの沿道で応援していた村民の言葉です。飯館村チームの力走は、多くの人の心を動かします。福島陸連の三浦武彦理事長は本大会の総評の中で「避難者が多い中で毎年選手をそろえる飯館村のようなチームは出場することの意義を感じさせてくれる」と述べています。

仲間を信じ、支えや応援に感謝して懸命に走る姿は、本当に清々しく、人々に力を与えてくれます。二斉スタートとなつても見えないタスキが選手から選手へ引き

継がれていることを多くの人が感じていたのではないのでしょうか。飯館村チームは今年も全区間を完走しました。

解団式で佐藤彰洋監督は「タイムを短縮できたことは、チームの頑張り。大成功な大会だった。次の世代が参加してくれることを感慨深く思う。明日から来年の大会に向けて練習を始めた」とこのゴールがスタートでもあると語り、林英滋総監督は「選手は設定タイムを7分短縮してくれた。応援してくれた村民のおかげでもあると思う」と声援に感謝しました。

総合成績49位
記録6時間25分20秒

大内龍太郎主将 20年連続出場で表彰
職場の理解と配慮をいただき練習をしてきました。一緒に走ってくれる中高生にも感謝しています。20年間出場してこれたのは、監督や周りのチームメイトのおかげですし、また村民の皆さんの応援のおかげだと思っています。今大会は、自分の子ども達も応援に来てくれました。走ることを通じてかけがえのない経験ができていると感じています。



初出場は中学3年生
写真は高校1年生時
震災による全村避難の中でも単独チームでの出場を諦めず関係者と共にチームづくりを支えてきました。後輩に走る楽しさ、駅伝の魅力を支え続けています。

チームメンバー(敬称略)

- 総監督 林英滋
- 監督/4区 佐藤彰洋(南相馬消防署)
- コーチ 向井敏(いいたて希望の里学園)
- コーチ/2区 三浦有矢(いいたて希望の里学園)
- 1区 菅野裕日子(飯館村役場)
- 3区 菅野茂則(消防飯館分署)
- 5区 飯畑友貴(消防飯館分署)
- 6区 大内匡泰(菊池製作所)
- 7区 杉岡響(いいたて希望の里学園7年)
- 8区 菅野拓真(いいたて希望の里学園8年)
- 9区 齋藤あおい(西袋中1年)
- 主将/10区 大内龍太郎(飯館村社会福祉協議会)
- 11区 赤石澤歩美(飯館村役場)
- 12区 高橋大和(福島明成高1年)
- 13区 高橋隆聖(福島明成高1年)
- 14区 菅野翔(福島明成高2年)
- 15区 佐藤万姫(そらいろ動物病院)
- 16区 細杉睦輝(工学院大3年)
- サポート 杉都珂瑛(いいたて希望の里学園9年)
- サポート 結城樹真(いいたて希望の里学園8年)
- サポート 渡辺凌駕(いいたて希望の里学園8年)
- サポート 杉岡佳朋(いいたて希望の里学園9年)
- サポート 根本奈於(いいたて希望の里学園)
- サポート 石川多見(飯館村役場)



見えないタスキで結ばれた仲間。チームワークも走力もさらなる高みへ。次回大会への思いも語り合いました。

関わってくれたすべての人に感謝
チームの顔を思い出して走り切った
この悔しさを忘れずに強い選手になっていきたい
同じ目的に向かって絆が深まった
練習を頑張ってきた
沿道からの応援のおかげで走り切れた
楽しかった、来年も走りたい
チームの皆さんとの出会いに感謝
最後まで気力を出し切ることができた
中学生選手の保護者の協力にも感謝
サポートをして選手の思いを感じることができた
応援している時も涙が出るくらいに感動した
(解団式での言葉を一部抜粋)

和牛育成管理共進会

10月28日に本宮市場で行われた第31回「JAグループ和牛育成管理共進会」で好成績を取った関係者が来庁し、村に成績を報告しました。来年は5年に1度の全国大会が鹿児島県で開かれます。全国大会につながる来年の共進会にも期待が集まります。



村役場での報告会にて

村産の牛が好成績を収める
 10月28日、本宮市場（県家畜市場）で、第31回「JAグループ和牛育成管理共進会」が開催され、村の生産農家3人が4頭を出品しました。
 共進会では1区から5区まで部門別の審査が行われ、4区3頭（一群）で、細川恵美さん（上飯樋）、佐藤豊洋さん（飯樋町）、荒川孝幸さん（南相馬市）のグループが優等賞（南相馬市）のグループで山田豊さん（関根・松塚／株式会社社ゆーとぴあ）が1等賞と好成績を収めました。「JAふくしま未来」としては3つの区で主席を獲得し、2年連続の団体賞を受賞しました。
 11月1日に村役場で開かれた報告会。共進会にも足を運び、改めて報告を受けた杉岡村長は、「現地で生産者の皆さんの思いの強さを感じてきました。村の牛をしっかりと発信し応援していきたい。佐藤二郎さん（大倉）の牛が全国大会に行った前回大会の喜びをまた味わいたい」とさらなる活躍に期待を寄せました。



山田豊さん



佐藤豊洋さん



細川恵美さん



共進会の会場の様子

あぶくもち



冷害に強く中山間地で安定した品質・収量を確保できること、従来の品種より加工適正が高いのが特長



あの日の想いを
実らせたい

平成23年 新春村民の集い



震災直前の平成23年1月に開かれたイベントです。「あぶくもち」を村の新しい特産品に育てていこうと生産者をはじめ関係者間で機運が高まりつつありました。会場であぶくもち餅は参加者がつきたてを味わいました。

震災前の夢を再び

もち米「あぶくもち」は、県が高冷地向けに開発し、村も栽培拡大に取り組んでいた品種です。平成23年の「新春村民の集い」では、新しい特産品とするべく期待を込めて、このもち米を販売し、会場で餅つきも行いました。

ほ場16アールで実証栽培を行い、9月に収穫。関係者や村民と共に加工の試作、試食による評価などを行っています。特定の地域名を冠した作物は珍しく、切り餅・丸め餅にする際の作業性に優れているなど特徴のあるもち米で、村は来以降も栽培や6次化に取り組み、近隣市町村とも連携し振興していきたいと考えています。



粘りがありモチモチして、おこわに合う。餅はサクツとした独特の食感。団子や菓子、洋食との相性はどうかなど、さまざまな感想・意見が集まりました。

食味や加工適性を評価する求評会が、10月27日、交流センター「ふれ愛館」で開かれました。県・村の担当者、JA、商工会、生産者、学校関係者などが、おこわと餅に加工された「あぶくもち」を試食し、実食して感じたことを評価シートに書き入れました。

『いいいて希望の里学園』では、11月15日の給食に「あぶくもち」が登場。モチモチの五目おこわを、子ども達が笑顔で味わいました。校内放送では杉岡村長が山田徹校長のインタビューを受け、児童生徒に「あぶくもち」の特性やこれまでの歩みを伝えました。



飯舘 百景

錦秋の点描

佐藤宣征さんの田んぼに懐かしい景色がよみがえりました。束ねた稲を天日と自然風で乾燥させる「はさがけ(稲架掛け)」と「つくしがけ」。秋の陽射しと周辺の紅葉も相まって、心和む風景が広がっていました。(11月4日)



『いたてスポーツ公園』の遊歩道もカラフルに



綿津見神社の参道の紅葉も錦の彩り



東北大学「惑星圏飯舘観測所」(前田地区)周辺の紅葉

佐藤宣征さん(前田・八和木)が、稲刈りを行っていたこの田んぼは、今年3月に返却された元仮置き場だそうです。ここで稲作を再開するにあたって、「せつかくだから昔のやり方でやってみよう」と、手を使った米作りに取り組みました。品種は「ひとめぼれ」。猿が多く出没するため、音の出る機械を置いて対策しました。

この日の稲刈りには、飯舘村地域おこし協力隊の松本奈々さん(深谷)、松尾洋輝さん(大久保・外内)らが参加し、まていな作業を体験していました。刈り取られた稲は、「はさがけ(稲架掛け)」「つくしがけ」に。佐藤さんは「パイプの部分も木材だともっと味が出るんだけどな」と少し惜しいと話していました。

11月に入って、村内では、一段と紅葉が進み、澄み渡った青空の下に、秋景色が広がりました。

センター地区では『いたてスポーツ公園』の遊歩道が紅葉に彩られています。綿津見神社の参道のモミジも色づいて、お社を厳かに引き立てていました。

前田地区の空撮写真はため池工事の撮影を行った際に遠景で捉えた1枚です。色づいた山並みの中にふっと現れた東北大学「惑星圏飯舘観測所」の大きなアンテナ。ダイナミックな紅葉の風景です。

火災予防運動週間に合わせて 飯館分署と合同避難訓練

学園
NEWS



多目的消防自動車で救出訓練。先生が要救助者役に

11月4日、『いいいて希望の里学園』で消防合同訓練が行われました。飯館分署が、防火意識を高め関連機関の連携を密にすることを目的に、『火災予防運動週間』に合わせて実施しました。訓練には学園の他、『ままでの里のこども園』『役場消防隊』など約190人が参加。「通報・避難訓練」「火災防衛訓練」などを行い、子ども達は迫力満点のはしご車に釘付けの様子で、救助が成功した時には拍手を送っていました。

1人1台のタブレットを活用 ICT教育が進んでいます

今年度、教育委員会が全児童生徒と教員に配付したタブレットが、授業や校外学習、家庭との連絡などに広く活用されています。児童生徒は、学習や宿題はもとより、写真、映像の記録、文章やイラストの作成にも活用しています。また、校内に常駐するICT（情報通信技術）支援員が、ICT教育をバックアップ。外部講師によるプログラミング教育や、ウェブ会議システムを使った交流活動なども進められています。



日頃の授業の中でもタブレットを活用しています

MOA美術館児童作品展 聡一郎さんと黎姫さんに特別賞



右から、書写「木」 絵画「はじめて木をきった日」（花井さん）
絵画「みんなで見たはくりよくの花火」（佐藤さん）



第6回『MOA美術館南相馬児童作品展』で、『いいいて希望の里学園』の花井聡一郎さん（3年）／写真左側が「書写」「絵画」で飯館村長賞、佐藤黎姫（れいか）さん（3年）／写真右側が「絵画」で飯館村教育委員会教育長賞を受賞しました。

までいの里のこども園 笑顔キラキラ こども園発表会

11月20日、『までいの里のこども園』で生活発表会が行われました。今年は「笑顔いっぱい みんなが主役の発表会」をテーマに、新型コロナウイルス感染症対策のため、3歳未満児と以上児を分けた2部構成で、子ども達が元気いっぱいに発表しました。

子ども達は、この日のために練習してきた歌やダンス、創作劇などをお家の人の前で元気いっぱい披露。客席からあたたかい拍手がおくられました。



百歳賀寿

花井 トヨ さん
大正10年10月28日生



家族に囲まれ優しい笑顔浮かべる花井さん（前列左から2人目）

10月28日、100歳の誕生日を迎えた花井トヨさん(伊丹沢)が、百歳賀寿の記念品を贈呈されました。花井さんは、賞状を受け取ると、喜びをかみしめるように自ら声を出して全文を読んでいました。
ご家族によると、食欲旺盛で、携帯電話も自分で使いこなすといえます。これからもその笑顔で周りの人にパワーを与えてくださいね。

けんこう
あなたのお口は健口ですか？ (第2回) 全3回



歯磨きや入れ歯のお手入れは毎食後しているでしょうか。お口の健康は、全身の健康、生活の質も高めます。今回はお口の健康と糖尿病についてです。



● 糖尿病とは

血糖値を下げる働きをするインスリンというホルモンが十分に分泌されなくなったり、効かなくなったりして高血糖の状態が続く病気です。高血糖状態が続くと血管が傷つき、失明や腎臓病、神経障害等の合併症を引き起こします。

● 歯周病と糖尿病

歯周病があると炎症物質が血管を通して身体中に放出されてしまいます。炎症物質は身体の中で血糖値を下げる働きをするインスリンを効きにくくしてしまいます。その為、歯周病があると糖尿病が発症・進行しやすくなります。また、高血糖は歯周病を悪化させます。歯周病と糖尿病はお互いに悪い影響を及ぼし合う関係にあります。

● かかりつけの歯医者さんを持ちましょう

虫歯や歯周病がなくても、定期的に歯医者さんに口腔状態を看てもらいましょう。特に糖尿病がある方はかかりつけの歯医者さんを持つ事が大切です。

問 健康福祉課健康係 (いちばん館内) ☎0244-42-1637



小春日和の風の子広場で むし歯0の子表彰式

11月7日、むし歯がなかったお子さんを表彰する「むし歯0の子表彰式」が、「ふかや風の子広場」で行われました。
式では、広場中央の遊具に看板が掲げられ、芝の上に置かれたマットが家族ごとの席に。まぶしい青空の下で笑顔が交わされる素敵な式になりました。
表彰を受けたのは、令和2年度の3歳5か月児健康診査でむし歯が1本もなかったお子さん達です。名前を呼ばれると、人ずつ前に出て、杉岡村長から、表彰状と輝くメダルを受け取りました。また、サプライズゲストとして、村の公式キャラクター「イタネちゃん」が登場。一人ひとりに歯ブラシなどのプレゼントを手渡しました。



名前	性別	行政区	名前	性別	行政区
泉 奏愛音	女	長泥	小野 史也	男	蕨平
高倉 陸	男	前田	花井 慎乃丞	男	大久保・外内
遠藤 翔	男	前田・八和木	高野 大和	男	大久保・外内
高橋 由來	女	長泥	佐藤 滉耀	男	関根・松塚
山口 蒼葉	女	前田・八和木	中島 菜緒	女	比曾
木幡 優蘭	女	伊丹沢	佐藤 なぎさ	女	二枚橋・須萱
高野 滯	女	前田・八和木	高野 愛理	女	大倉
須藤 紅空	女	二枚橋・須萱	佐藤 千珠	女	前田
坂井 らら	女	飯樋町	藤井 結都	男	上飯樋
鳴原 沙來	女	比曾	村上 陽祐	男	上飯樋
佐藤 泰我	男	関根・松塚	巻野 杏友	女	伊丹沢
鹿山 健真	男	深谷	林 璃來	女	白石
菅野 陽葵	女	比曾	佐藤 一虎	男	伊丹沢
佐藤 逞翔	男	前田・八和木	巻野 結香	女	伊丹沢
桑折 香澄	女	上飯樋	三坂 真白	男	白石

移住者同士が思いを語り合う 移住者交流会が開かれました



カード交換会では話が弾み、思い思いに語り合う様子が見られました

11月7日、交流センター「ふれ愛館」で、移住者交流会が開催され、26人の移住者が参加しました。交流会では、参加者全員の自己紹介終了後、よりお互いを知るための「カード交換」や、情報共有のための「村内お勧めスポットの紹介」などを行いました。

初めは緊張した様子を見せていましたが、次第に打ち解けて会話が弾むようになり、胸の内や今後の人生などについて、時間いっぱいまで話し込み、貴重な時間を過ごしていました。

「わくわく」を創り出そう！ 事業を提案・実施する協議会の船出



活発に意見を交わしました。リモート会議のシステムを使って県外在住の委員も参加します

10月25日、令和3年度第1回「いいいてわくわく推進協議会」がビレッジハウスで開かれました。この協議会は、6次総のコンセプトを基に「ふるさとの担い手」達が自由に意見を交わし、生まれたアイデアから事業を提案、その実現を目指します。委員長には大井利裕さん(草野)を選出。事業の検討では、気候を生かしたおいしい作物、家庭に伝わる料理、自然や景観など飯館村の魅力が次々に語られ、それらを生かすアイデアをふくらませました。第2回会議は12月2日に開催され、さらに話し合いを深めています。

生涯学習講座「藍染教室」 染色の楽しさを味わいました



美しい「染色模様」が現れるのを楽しみに、染める前の作業を丁寧に進めます

11月12日、交流センター「ふれ愛館」で、生涯学習講座「染色を楽しむ藍染教室」を開催しました。講師は高木久子さん(大倉)です。

14人の参加者は、染色の方法や手順について説明を聞き、早速作品作りに挑戦です。染めない部分が模様になるので割り箸や輪ゴムを使って布のあちこちをしぼり、手順に沿って藍で染めていきます。エコバッグやハンカチなどを染色し、それぞれがオリジナルの作品を作りました。

二宮尊徳翁の報徳思想に学ぶ 『全国報徳サミット』



希望の里学園の卒業生で福島市の高校に通う渡邊諒介さん(写真)と杉岡村長が村役場から参加しました

江戸後期に諸領の財政再建・農村復興(報徳仕法)にまい進した二宮尊徳翁(二宮金次郎)。指南を受けた地域は全国600か所にのぼると言われています。その報徳思想を受け継ごうと、ゆかりの市町村が毎年持ち回りで開催しているのが「全国報徳サミット」です。今年は静岡県掛川市の主催で11月6日に開催され、飯館村を含む全国17市町村の高校生らが、「報徳思想から考える 私たちの社会の未来」をテーマにオンラインでリレートーク。その様子を動画共有サイトYouTubeでライブ配信しました。

スポーツトラクター寄贈式 NTTドコモ 社員募金の贈り物



11月19日『いいいてスポーツ公園』での贈呈式。村からは感謝状と記念品を

『NTTドコモ』から村へ、スポーツトラクターを贈っていただきました。同社は、東北被災3県と全国の自然災害被災地へ、全国約6,000人の社員の募金を元に寄付を行っています。

目録贈呈を行った高田博樹福島支店長は「スポーツ交流によるコミュニティの活性化、健康増進に役立ててほしい」とあいさつ。杉岡村長は、震災直後から続く支援に感謝を伝え、村民と共に前進していくことを誓っていました。

飯館分署が関係機関と連携し 秋季火災予防運動を実施



「秋季全国火災予防運動」に合わせ飯館分署を中心とした火災予防活動が村内各所で行われました。11月7日には飯館村消防団と「防火パレード」を実施。消防団が各行政区に分かれて「火の用心」を呼びかけました(写真1)。また、女性消防隊とは、住宅用火災警報器のPR活動(写真2)。飯館村社会福祉協議会とは、高齢者世帯を訪問し暖房器具や台所など火を使う場所を点検しました(写真3)。その他、危険物運搬車両が基準を満たしているかを確認する特別検査も実施しました(写真4)。

はなれていても

佐藤 順子さん（上飯樋） 福島県福島市在住

避難が続く中、福島市に設置された「いいたて子育て支援センター」すくすく」で平成26年末の開所から昨年の閉所まで勤務し、現在は福島市内の子育て支援センターで仕事をしています。当時「すくすく」の利用者には、初めての子育てで村とまだ関わりのない方も多く、一方の私達は元の村にこだわっていたので、そのギャップに気づくまでが苦勞でした。気づいてからは「誰のために」という方向性が明確になり、活動も充実していききました。今振り返ると、楽しかったですね。惜しまれた閉所でしたが、元は村から移した施設。「そうだと10年が経ったんだよね」という気持ちに皆がなったと思います。

進めていきました。実家のある茨城県水戸市に避難しましたが、やはり親子で暮らすと、長女の中学入学に間に合うよう福島市に移りました。その頃は大人も避難や仕事に大きな不安を抱えていました。「お友達のない新しい学校には転校したくない」という子どもの気持ちに寄り添おうとはしていても、完全にはできていなかったと思います。むしろ子どもの成長や、時々楽しそうに笑う姿に大人がいやされ、頑張っていたのだと思います。



「すくすく」で。（平成27年）
※座っている人の右端が佐藤さん

がたい経験も数多くあつて、そうした全てが今の私達をつくっていると思うようになりました。そして大事なことは「これから」なのだと思っています。大切な思い出と経験も、外に出たからこそ宝物のように思うのかも知れません。飯舘村はお父さんやじいちゃん・ばあちゃんが生まれ育った場所。昔はこうだった、あなた達はこんな風に育ったと子ども達にはこれからも伝えていこうと思っています。

パークゴルフ大会で交流



11月6日、『飯舘村老人クラブ連合会』が『いいたてパークゴルフ場』で、『第11回飯舘村老人クラブ連合会P・G大会兼第7回福島民報社杯P・G大会』を開催。74人の出場者が、笑顔あふれる交流と真剣勝負を楽しみ、男子の部では高橋則雄さん（二枚橋・須萱）、女子の部では佐藤廣子さん（大久保・外内）が優勝しました。

愚真会が新蕎麦イベントを開催



11月6日・7日、『いいたて愚真会』の皆さんが、『いいたて村の道の駅までい館』で新蕎麦のイベントを開催しました。この秋収穫されたばかりの『前田明神そば』の蕎麦粉で、チームワークよく蕎麦を打ち、打ち立てをレストランメニューに提供。持ち帰り用の蕎麦の販売も行いました。

身近な話題をお寄せください
☎0244-42-1613
村づくり推進課企画係

話題のパレット

『かぼちゃランタン』勢揃い



ハロウィンに合わせて、役場玄関と『ふかや風の子広場』に、個性豊かな『かぼちゃランタン』の一団が登場！村で育ったカボチャを使い、役場の若手職員と村民の有志が協力して、約40個を製作しました。多くの人が足をとめ、手作りの灯りのイベントを楽しんでいました。

おもちゃカボチャの収穫祭



10月30日、草野地区の小さな畑『マープルフーム』で、おもちゃカボチャを収穫するイベントが開かれました。『ふくしま再生の会』の主催です。たくさんの親子連れが村内外から来場し、収穫したカボチャに顔を描いたり、サツマイモ掘りを体験したり、畑の休日を楽しみました。



交流センター「ふれ愛館」だより

『希望の里学園』の2年生が来館

11月9日、『いいたて希望の里学園』の2年生が、生活科の学習で来館しました。図書館の利用の仕方や「ふれ愛館」の役割について積極的に学んでいましたよ。



「本の貸し出し」を体験して、利用方法を学びます。1人5冊ずつ好きな本を選んで借りました。それぞれ読んでみたい本がたくさんあった様子で、じっくり吟味して5冊を選んでいました。



「どうして本がたくさんあるのですか」「全部で何冊ありますか」と次々に質問。“知りたい”気持ちがきらきらの瞳に表れていました。これからたくさん本を借りに来てくださいね。

問 交流センター「ふれ愛館」

☎0244(42)0072



衆議院総選挙 村内の選挙結果について

10月31日に投開票が行われた第49回衆議院総選挙について、村内における選挙結果をお知らせします。期日前投票と当日投票を合わせた投票率は52.67%で、前回平成29年衆院選の投票率51.39%を1.28%上回りました。

第49回衆議院総選挙

- 【当日有権者数】 4,490人(男 2,277人・女 2,213人)
- 【投票者数】 2,365人(男 1,256人・女 1,109人)
- 【投票率】 52.67%(男 55.16%・女 50.11%)※小選挙区選挙・在外含む

小選挙区 ※届け出順

- 金子恵美 1,031票
- 亀岡偉民 1,314票



比例代表 ※届け出順

- | | |
|----------------|--|
| 社会民主党 46票 | れいわ新選組 62票 |
| 立憲民主党 606.441票 | 公明党 289票 |
| 日本共産党 117票 | NHKと裁判してる党弁護士法72条違反で 28票 |
| 自由民主党 976票 | ※立憲民主党と国民民主党の略称がいずれも「民主党」だったため、「民主党」と書かれた票は按分(あんぶん:得票率に応じて比例配分)され、票数が少数点第3位まで記載されています。 |
| 日本維新の会 57票 | |
| 国民民主党 84.558票 | |

入札結果をお知らせします

入札日 / 10月22日(単位:円)

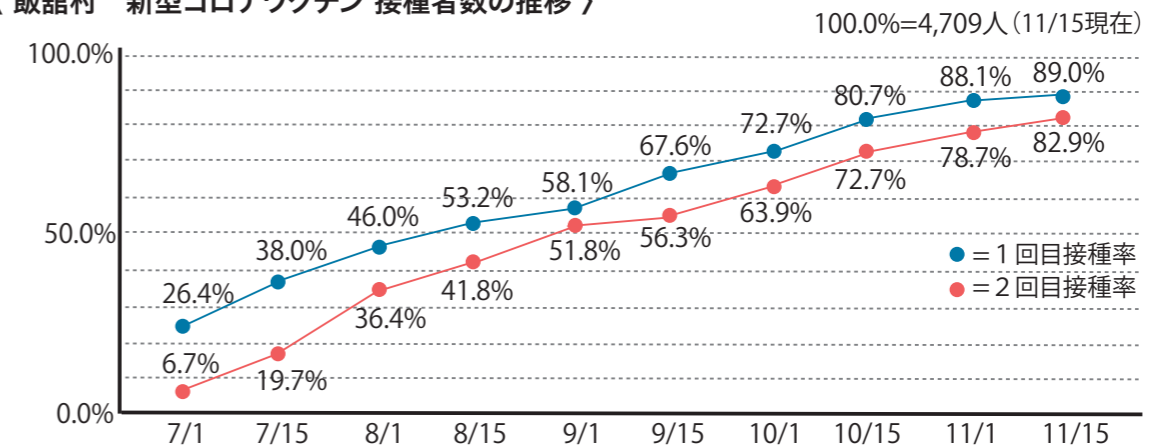
工事(業務)の番号・名称	契約額(税込)	請負業者	完成予定
生活環境整備事業 水道施設標識機能回復工事	15,070,000円	旭産業(株)	令和4年3月下旬
村道区画線設置工事(伊丹沢字笹ノ沢地内外)	13,860,000円	福島交安(株)	令和4年3月下旬
農業基盤整備促進事業(飯館西部その2) 農業基盤整備工事(水路工)関沢地区 第1回工事	42,075,000円	(有)渡建工業	令和4年3月下旬
農業基盤整備促進事業(飯館西部その2) 農業基盤整備工事(水路工)宮内地区 第1回工事	35,200,000円	(株)東栄	令和4年3月下旬

新型コロナワクチン 接種者数の推移

飯館村における新型コロナワクチンの接種は、11月15日現在、1回目接種を完了した村民が対象者全体の89.0%、2回目接種を完了した村民が82.9%に達しています。飯館村の接種者数の推移を、下記のグラフで報告します。

また、ワクチンを2回接種した場合でも、時間の経過に伴いワクチンの有効性が低下していくことから、国の方針の下、3回目の接種(追加接種)の準備を進めることになりました。詳細は決まり次第、順次お知らせします。なお、感染者数が減少している現状ですが(11月26日現在)、再び感染拡大が起きることも想定されています。感染症対策は、気を緩めることなく、引き続き行いましょう。

＜飯館村 新型コロナワクチン 接種者数の推移＞



11月の村の動きと主なできごと

- 1日・第31回「JAGグループ和牛育成管理共進会」報告会(村役場)
- ・第2回きこり・あいの沢利活用検討プロジェクトチーム会議(宿泊体験館きこり)
- 2日・第53回新型コロナウイルス感染症対策本部会議(村役場)
- 4日・「いたて希望の里学園」「まていの里のこども園」合同避難訓練(いたて希望の里学園)
- 5日・学校田で収穫した新米喫食会(いたて希望の里学園)
- ・第33回市町村対抗福島県縦断駅競走大会(ふくしま駅伝)
- 6日・第26回全国報徳サミット掛川市大会(静岡県掛川市/オンライン参加)
- 7日・村消防団 防火パレード(交流センター「ふれ愛館」/村内各所)
- ・むし歯0の子表彰式(ふかや風の子広場)
- ・移住者交流会(交流センター「ふれ愛館」)
- 12日・生涯学習講座「感染予防対策本部会議(村役場)」
- 15日・第54回新型コロナウイルス感染症対策本部会議(村役場)
- 16日・「あぶくまもち」給食喫食会(いたて希望の里学園)
- 17日・第22回読書メッセ「ジコネテスト審査会(交流センター「ふれ愛館」)
- 19日・男女共同参画計画第2回策定委員会(交流センター「ふれ愛館」)
- ・スポーツトラクター贈呈式(いたてスポーツ公園)
- 20日・農業委員会定例会(村役場)
- 21日・行政視察(村役場)
- 22日・「まていの里のこども園」生活発表会(まていの里のこども園)
- 23日・第33回市町村対抗福島県縦断駅競走大会(ふくしま駅伝)
- 24日・行政視察(村役場)
- 25日・飯館村議会第7回臨時会(村議場)
- ・ゆずカフェ(認知症カフェ)(交流センター「ふれ愛館」)
- ・飯館村文化財保護審査議会(交流センター「ふれ愛館」)
- ・定例会教育委員会(村役場)
- 26日・第3回きこり・あいの沢利活用検討プロジェクトチーム会議(村役場)
- 27日・行政視察(村役場)
- 28日・令和3年度原子力防災住民避難訓練(村内各所)
- 29日・令和3年飯館村表彰式(交流センター「ふれ愛館」)

実りの秋。生産者の皆さんが、丹精込めて育て上げた産品を味わう度に、より多くの方にこの味を楽しんでいただきたいと強く思う11月でした。ふるさと納税返礼品にも村産品を増やしていきます。

(杉岡村長)

〈ふるさと資源〉発掘図鑑

掲載についてお問い合わせは村づくり推進課企画係 ☎0244-42-1613までお気軽に。

お気に入りの景色、ふるさとを感じるモノ、自分が打ち込んでいるコトなど、あなたの「推し」を教えてください。

旧「もりの駅まごころ」や学校給食で大人気だった鮎川さんの米粉パン。鮎川さんは避難先の山形県大石田町で再びパンを焼き始め「米粉パンの店 あおいそら」を開店。その品質とおいしさは現地でも高く評価されています。お店の定休日を利用し月に一度（第4週の月曜日を基本に）飯館村へ。おいしい米粉パンを届けています。

役場玄関脇ではお昼頃から30分ほどの販売。

米粉パンに出会ったのがここ飯館村。ここに来なければ米粉パンを始めることはなかったと思います。飯館村は私の原点でもあり、大切な場所なんです。（隣は夫の渉さん）

鮎川ゆきさん（小宮）

立派に育ったみかん

寒さに弱いと言われているミカンですが、村で育ったという情報が入りました。育て主は、庄司勝さん。今春に苗木を植えると花が咲き、20~30個ほど実ったそうです。

村でもみかんが育つくらい、近年は暖かくなってきているんだなあ、と。来年はどのくらい実るか、今からとても楽しみです。

庄司 勝さん（前田・八和木）

いいたてクリニック休診のお知らせ

毎週火・木曜日に診療を行っている『いいたてクリニック』は年末年始期間の12月29日(水)から1月3日(月)まで休診となります。年内最終の診療日は12月28日(火)、年明け最初の診療日は1月4日(火)となりますのでご注意ください。

問 健康福祉課健康係（いちばん館内）☎0244-42-1637

ひとのうごき		10月1日~31日までの人口動態	
(令和3年10月31日現在)		◆◆人口動態◆◆	
人口	今月(前月比)	転入	2人
男	2516人(-5)	転出	14人
女	2501人(-12)	出生	1人
計	5017人(-17)	死亡	6人
世帯数	1813戸(±0)	(住民基本台帳人口)	

(10月21日から11月20日までに届け出のあったものを掲載)
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

おくやみ

氏名	年齢	行政区
佐藤 マツ	84	前田
長谷川 健一	68	前田

ご冥福をお祈り申し上げます

地域おこし協力隊 いいたてDIARY

みなさんこんにちは！
村の仲間と共に立ち上げた地域おこし会社「MARBLING(マーブリング)」で取り組む、旧コメリ活用プロジェクト、既に地域の方々にたくさんご協力を頂いており日々着々と進んでいます！
カフェやイベントスペース、実験・研究テナント、村内起業家の情報交換の場など、飯館村の交流や学びの拠点として、今後も地域のみなさんと一緒に空間づくりをしていきたいと思っています。
ここがどんな場になっていくのか、まだまだみなさんに情報をお伝えできていないなと思います、MARBLINGの最新情報を配信するLINE公式アカウントを開発してみました。LINEアプリの入ったスマホをQRコードにかざすだけで登録できますので、ぜひチェックしてみてください！



今月のライター
飯館村地域おこし協力隊
松本 奈々さん

おいしい飯館！ までの食卓

生産者の皆さんに美味しい食べ方を聞いてみよう！

道の駅では便利なペーストも販売中

雪っ娘かぼちゅの巻

「までの工房美彩恋人(ひさいれんと)」代表。雪っ娘の加工食品も多数開発。

雪っ娘かぼちゅの団子汁

ゆでてつぶしたカボチャと同量の中力粉を混ぜ、少しずつ水を入れて耳たぶ位の柔らかさに練り、少し寝かせます。鍋に湯を沸かし、生地をスプーン半分位ずつつくり入れます。浮き上がり粉っぽさがなくなったら氷水に取り、粗熱をとってザルに上げます。汁は豚肉・根菜類・キノコなどを炒めて煮込み味噌と醤油で味付け。団子を汁に入れひと煮立ちさせていただきます。

渡邊とみ子さん（前田・八和木）

30年以上の年月をかけ村で生まれた『いいたて雪っ娘』は色鮮やかな果肉と爽やかな風味が特長。11月23日には『いいたて村の道の駅までの館』で雪っ娘マルシェが開催されレストランに限定メニューがお目見えしました。

丸ごと雪っ娘ソースのハンバーグ

1月頃まで土日限定で提供します

にぎわうマルシェ

歴史ある民俗芸能を映像で未来に継承

『比曾の三匹獅子』 田神社で映像収録

300年以上の歴史をもち飯館村の無形民俗文化財に指定されている『比曾の三匹獅子』が、11月7日、比曾地区の田神社で披露されました。比曾芸能保存会が、今後の継承に役立てようと、文化庁の補助を受けて制作する記録映像の収録を兼ねた披露で、地区の人など約60人がその様子を見守りました。



『比曾の三匹獅子』は、かつては田神社はじめ4つの神社の祭礼で奉納されてきました。この日の収録では、お囃子に合わせて、高橋公仁さんら4人が、2匹の雄獅子、雌獅子、さらさらすりの激しい舞を披露。集まった観客が、盛んに拍手を送りました。記録映像には衣装の着付けの方法なども収録し、完成した後にDVDで地区の皆さんに配付される予定です。



胸を熱くして勇壮な舞に見入る地区の皆さん。



すぐ後方には舞を真似る子ども達の姿が。

〈編集後記〉

●今年も飯館村チームの一員として、ふくしま駅伝の1区を走らせていただきました。「村のために」の一心で臨み、昨年よりも様々な感情に溢れ、チームの仲間と過ごした時間がかげがえのないものになりました。それだけ周りの人・環境に恵まれていたことを実感。応援してくださったすべての方に、心から感謝します。(菅野)

●村内の撮影に出かけて溜まった落ち葉に車がはまり、近くの事業所の方に助けていただきました。翌日お礼に行くと「そんなの当たり前のことだから」と。村の人の温かさをまたジンワリ実感したできごとでした。(星)

Native Speakers

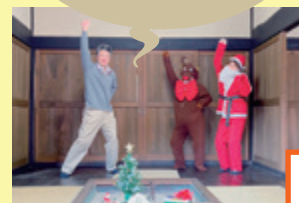
ネイティブ・スピーカーズ 飯館言葉の達人たち

第8回

その意味は...



お礼言いちゃくてまぶってた。よわりでけんごめありがとね



スマホのカメラをかざしてYouTubeで見てね

または検索で!

飯館村 YouTube